

土地改良記念碑探訪

笠野原台地の水神碑

大隅半島中央部に広がる広大な笠野原台地の開発は、藩政時代から始められたが、飲用水にも不自由するほど水に乏しかったため進歩しなかった。昭和2年に上水道が引かれ、耕地整備が昭和9年に竣工し、開墾が進み区画・道路が整備され、人口も増加した。

国営畑地かんがい事業は、全国第1号として住民を二分する反対闘争を経て昭和33年に着工され昭和44年に完了した。

右の水神碑は、水没住民に対する感謝をこめて建立されたものである。

維持管理は笠野原土地改良区が行っており、昭和56年までに、県営かんがい排水・農地保全、団体営土地改良事業が完了した。

- ◇ 参考文献:「鹿児島の土地改良記念碑」より抜粋
- ◇ 発行:鹿児島県土地改良事業団体連合会

